人文科学

人間性の追求

哲学

太田、成田(常)、藤中の各教官が担当する。

太田教官はギリシャ哲学を専門とし、哲学とは何かどのようにして誕生したか思想文化の歴史的発展に即して考察してゆく。ボツリボツリと言葉を噛み締めるような語りには、ややもすれば眠気を催すのだが、講義に耳を傾けるなら、淡々たる語り口も応えられない魅力となること受け合い。

成田教官は、近世以降の西洋哲学を講ずる。デカルト、カントなどが取り上げられる。

教育学部の者は藤中教官が担当する。

倫理学

定兼、高橋、稲村教官が担当。

定兼教官は、「幸福と人格」という題目のもとに、幸福とは何か、幸福な人生にはどのような人間形成が必要であるかを考察する。黒ぶち眼鏡の優しい顔で、マイクを片手にわかりやすい講義を進めていく。試験は、教科書、ノート持ち込み可だが、授業に出ていないと的を得た解答を導くことはできないだろう。レポートを提出すると評価にプラスされる。

高橋教官は、倫理学の基礎概念である人格、価値、道徳意識、行為などについて考察する。

文学

〈日本文学〉小坂、朝倉赤羽、工藤、井上、山本の各教官が担当

小坂教官は、明治以降の主要な作家の代表作を取り上げて講義を進めてゆく予定である。

赤羽教官は、奈良時代以前の歌謡(上代歌謡)を取り上げる。「古事記」「日本書紀」にかかわってくるだろう。欠かさず講義に出ること。高校ではあまりなじみのなかった筈の分野だからといって敬遠しないでついていって欲しい。面白い講義が期待できる。

井上教官は、今お身体の具合が悪いため、前期は休講され、朝倉教官が代行される。後期は「万葉集」を講読の予定。

朝倉教官は、「万葉集」「徒然草」等を講読し、「無常」を強調する。冗談はたまにしか言わないが、興味のある人には面白い。出欠はとらないが、論述式の試験なので、講義に出てないとわからないだろう。

〈西洋文学〉

植杉教官はロシア文学が専門である。ロシア社会思想との関係から、ツルゲーネフ、ドフトエフスキィを始め19C～20C初期の作家及び作品を取り上げる。

宇京教官はフランス文学を講義する。

〈中国文学〉

広常教官が担当する。中国人の自然観・人生観の特質を考察し、中国文学の根底を探究してゆく。

心理学

多屋、南条、笹野、大羽各教官が担当する。

多屋教官はいつも顔が笑っている。それも、言ったら失礼かもしれないがニコニコというよりヘラヘラなのだ。聞いている者にはちっともおかしくはないのだが。たまに出席をとる。試験問題は予め教えてくれるがやや難しい。昨年、講義中に無断で退室しようとしてとっちめられた人が居た。普段はおとなしいが怒ると怖い(誰だって怒ったら怖い)。あまりなめた真似をしないように。

南条教官は出欠はたまにしかとらないが、出席点も試験得点と同じように重視する。スライドを使っての学習が多い。板書はあまりしないので自分で講義のポイントをノートするように。試験は、試験前に配るプリントの中の問題から出題する。気性は激しいが、光る頭の好々爺である。

芸術

福井教官は音楽を担当する。美学的見地から、音楽作品の形式・内容等を講義する。

斉藤教官は美術を担当する。美術一般の基礎的理解を方向とした講義をする。教官の専門は日本の仏像や建築である。

歴史学

〈日本史〉

石田、吉田、河野の各教官の担当である。

石田教官は、歴史というものをあらゆる角度から論ずる。講義は自分の興味ある課題を取り上げて、詳しく説明する。紙をまわして出席をとる。試験は授業と全く関係ない問題で、論述問題をボロッと一題出してくる。ちなみに昨年の問題は、「最近の新聞から読んだ歴史的記事について述べよ」「日本と中国の文化の歴史的関係について述べよ」であった。こういうことを新聞に載せると、教官がパターンを変えてくるかもしれないが、人間がそうコロコロ変わるものではないから、まあこんなもんだ、と思っていればよいだろう。

吉田教官は、五世記の日本をについて講義する。

河野教官は人柄の良さそうな人である。出欠はとらない。試験はノート持込み可なので、パープリンでなければ単位はバッチリだろう。有非閣の「概説日本史」をテキストとして使う。

〈西洋史〉

永田教官は、ヨーロッパの諸問題を論ずる。

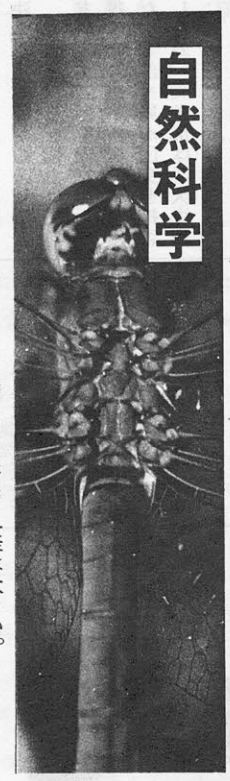
田熊教官は、ヨーロッパ史の構造的特質を明らかにしつつ、近代ヨーロッパの「市民社会」の成立について考察してゆく。

〈東洋史〉

好並教官はちょっと毛色の変った人で、東洋史というより社会問題を取り上げる。例えば部落解放問題などの社会問題を講義することもあろう。我々のまわりにあるあまり気付かれないことを話してくれる。レポートの課題が出たら必ず提出するように。特別にノートをとる必要はないだろう。出欠はとらない。

大渕教官は、農耕経済社会と東洋(とくに中国)について集点的に講ずる。

自然科学



数学

片岡、北山、那須、石川、堤、坂田、津野、本元、平井、掛谷、脇本、垂水、中村、永原、一村、新谷、田中の各教官が担当する。

理科系の学生を対象としたものは理論体系としての数学、ということで理論面が重視される。文科系では高校の内容を少し深めたようなものだが、解法技術つめ込み式の受験数学とは大いに異なり、計算能力の向上だけでなしに、物事の論理性を習得する。単に講義を聞いていれば済むというものではなく予習・復習に多大の努力を要する。真面目に出席しなければならないことは言う間でもない。

片岡教官は文科系学生を対象とし、基礎的な講義をする。教科書を詳しく丁寧に解説してくれる。特に証明問題は重視する。授業のペースは遅いので欠かさず出席していれば試験前にも特別に慌てることはない。別名、歩く人間針金!細いのだ。

北山教官は教科書に沿って解り易く説明する。試験はやや難しいが、教科書を充分理解していればできる。

堤教官は線形代数学系の教官である。したがって講義内容は、数理学・行列・統計学・集合論などである。話しぶりは穏やかで一つ一つ丁寧に話し、やさしい教官である。単位取得率は素直にやれば百パーセントだ。試験は基本的な内容であるが、やる人とやらない人の差は大きい。

掛谷教官は微分積分学を専門にしていて、理科系学生を担当する。声が聞き取りにくい、と言う人も居るが気にすることはないだろう。試験は授業に出たことさえおさえてあればできる。

物理学

藤田、萬本、橘高、竹下、大滝、重田、谷本、溝内、高野、安福、中原、赤松、平松、大石の各教官が担当する。

文科系の学生のほとんどは橘高教官が受け持ち、物理学の序論を平易に説明する。

藤田教官は非常勤講師だが、出欠は時々とる程度、試験には教科書・ノート持込み可で、試験中にヒントを与えてくれるそうな。学生の側に立って単位を取り易くしてくれる。こういう先生ばかりだと学生はウハウハなのだが。

萬本教官は居眠りしていても文句は言わないけれど、気の利いた事も言わない。講義一筋のだるさも試験の易しさで挽回。レポートを時々出させるので必ず提出するように。評価に影響する。

化学

吐山、東山、岩知道、長谷川、江口、杉山、速水、高木の各教官が担当。

理科系と文科系では相当内容が異なり、理科系では専門への地堅めとして、理論面が重視される。一方文科系では、生活の知恵としての色彩が強い。

吐山教官は一方的に授業を進めてゆくワンマン型。少し頑固な所もある。

東山教官はテストをすることが好きな教官だ。時間は厳守。横向きの姿勢で講義をする変わった教官。あれで見えているのか疑問だ。講義中スライドを使用することもあり真面目に聞けば興味のある講義だ。とにかく毎日のテストが単位に影響するので要注意!化学Ⅱを学習した方は是非お勧めしたい。

高木教官は出欠に厳しいが講義はどえれえ面白え。身のまわりにある普段気にとめないような物質や現象をわかり易く説明してくれる。試験問題も授業で取り上げたものばかりで、ノート持込可だから単位は取れない筈はない。しかし落とすパラも若干いる。

生物学

猪俣、渡辺、山根各教官が講義する。

猪俣教官は存在そのものがジョークなのだ。いつもニコニコ、とりとめのない授業。細胞の段階および高等植物の段階における遺伝学的基礎事項を解説する。出欠は毎週とるが試験は易しい。

渡辺教官は内容の面白い授業をする。教科書は中谷宇吉郎の「科学の方法」。出欠はとらない。試験中にはカンニング防止法を発令し試験官を3～4人つれてくる。計算が多いので文科系学生には難(?)。もっとも生物学を　系の範疇から追い出そうとする輩も見受けられるので何とも言えないが。

地学

田代、橋爪、佐藤、森、濡木、浅見、光野、石田の各教官が担当。

濡木教官は地質学を専門

勢を目

新入生にとって、最初の履習科目決定は惑うことだろう。大学での講義がどんなものかもわからない時に各自希望の科目を選択し、時間割を決めて履習届を提出しなければならない。決められたワクの中でどの科目を選ぶか、又どの教官の講義を選ぶか、今後の大学生活にとって極めて重要な問題である。

本紙ではそういった新入生のために、教養部の科目及び教官を紹介することを企画した。多くは以前受講された方の御協力のもとに成っている。取材期間が短かったために、紹介のない教官があることを断っておきます。

出欠確認の有無とか、試験問題の型体や難易なども記載したが、これは変わることもないわけではないので予め注意するように。また、出欠をとらないから、とか、易しい問題だから、といって講義をサボって単位だけは取ろうなどと考えないように。もっとも、そうしたかったらご自由に。別に悪いことではない。教養部は人間形成の場として、専門とはあまり関係ないことも学ぶ。授業をサボって遊ぶことだって人間形成に役立つと思えば大いにサボってもいいのだ。父ちゃん母ちゃん泣くで!?

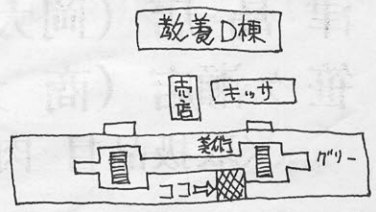
学内唯一のマスメディア

1949年創刊　月刊　岡山大学新聞

☎0862-52-1111
振替岡山5282

定期購読のお申し込みを

○毎月15日発行 平均4ページ
○学内外のニュース・評論・役に立つ情報の数々
○ 年十回発行
○郵便振替で1000円(一年分送料込み)を岡山5282へ

編集部員・報道写真部員募集

○学部・学年・男女問わず
○新聞会BOXまで